

0歳の予防接種スケジュール

ワクチンデビューは、生後2か月の誕生日

0歳の赤ちゃんをVPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、生後2か月になったらできるだけ早くワクチンを受けることが大切です。このスケジュールはNPO法人VPDを知って、子どもを守るうの会によるもっとも早期に免疫をつけるための提案です。

ワクチン名	接種済み <input checked="" type="checkbox"/>	誕生	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳
不活化ワクチン B型肝炎 (母子感染予防を除く)	<input type="checkbox"/>			①	②					③				
生ワクチン ロタウイルス	<input type="checkbox"/>			①	②									
不活化ワクチン ヒブ	<input type="checkbox"/>			①	②	③								
不活化ワクチン 小児用肺炎球菌	<input type="checkbox"/>			①	②	③								
不活化ワクチン 四種混合 (ジフテリア・百日せき 破傷風・ポリオ)	<input type="checkbox"/>			①	②	③								
生ワクチン BCG	<input type="checkbox"/>						①							
生ワクチン MR (麻しん風しん)	<input type="checkbox"/>													
生ワクチン 水痘 (みずぼうそう)	<input type="checkbox"/>													
生ワクチン おたふくかぜ	<input type="checkbox"/>													
不活化ワクチン 日本脳炎	<input type="checkbox"/>													

必要回数を接種するために生後2か月になったらすぐに同時接種で受けましょう。

生後3か月になったらすぐに同時接種で受けましょう。

集団接種の地域では、同時接種で受けられません。

標準的には3歳から接種しますが、生後6か月から受けられます。

0歳のうちに3回接種が必要。3回目は、2回目から4-5か月の間隔をあけて受けます。

1価ワクチンと5価ワクチンがあります。初回は遅くとも生後14週6日までに接種を開始し、それぞれの必要接種回数を受けましょう。

3回目を生後6か月までに受けるようにしましょう。

長期にわたって予防効果を維持するためには追加接種が必要です。1歳代の追加接種を忘れずに受けましょう。

1歳の誕生日が来たら同時接種で受けましょう。ヒブ・小児用肺炎球菌・四種混合・MR・水痘・おたふくかぜの6本を同時接種で受けることもできます。

- 不活化ワクチン** 不活化ワクチン 注射・スタンプ式 **定期** 定められた期間内で受ける場合は原則として無料(公費負担)。
- 生ワクチン** 生ワクチン 経口 **任意** 多くは有料(自己負担)。自治体によっては公費助成があります。任意接種ワクチンの必要性は定期接種ワクチンと変わりません。

- 定期予防接種の対象年齢** (赤い背景)
- 任意接種の接種できる年齢** (黄色い背景)
- おすすめの接種時期(数字は接種回数)**
 - 次にほかの種類のワクチンが接種できるのは、不活化ワクチン接種後は1週間後の同じ曜日、生ワクチン接種後は4週間後の同じ曜日からです。

同時接種：同時に複数のワクチンを接種することができます。安全性は単独でワクチンを接種した場合と変わりません。国や日本小児科学会も乳幼児の接種部位として太もも(大腿前外側部)も推奨しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。

詳しい情報は <http://www.know-vpd.jp/>